たちつてとちぎ

JA全農とちぎ 通信

2026
9
Vol.306



特集

栃木の梨のシーズンがはじまります！
大田市場でとちぎ梨トップセールスを開催

トピックス

とち和会視察研修会を実施
タウンホールミーティングを開催
ノンプラスチック被覆肥料　現地研修会を開催
栃木県麦民間流通連絡協議会
ジュース用トマト機械収穫見学会を開催
第16回「いちご王国グランプリ」表彰式を開催
夏休み親子米粉料理教室を開催
栃木トマト消費宣伝事業委員会を開催
栃木いちご消費宣伝事業委員会を開催
栃木米アンバサダー・U字工事が「とちぎの星」をPR!
米粉協議会が県へ支援強化を要請

CONTENTS

・お知らせ
　春の栃木米キャンペーン
・簡単レシピ
　『豚肉と根菜のみそ炒め』
・子牛市場情報
・JAタウンからのお知らせ
・行事予定
・編集後記



©栃木県　とちまるくん

JAグループ栃木／JA全農とちぎはSDGsが目指す社会の実現に貢献しています
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

特集

栃木の梨のシーズンがはじまります！

大田市場でとちぎ梨トップセールスを開催



園芸部は8月7日(金)、東京都中央卸売市場大田市場で、「令和8年産とちぎ梨トップセールス」を実施しました。栃木梨消費宣伝事業委員会の髙野孝夫委員長や金田副本部長、とちぎフレッシュメイトらが、本格的に出荷が始まる栃木の梨を市場関係者へPRしました。





挨拶する髙野委員長

髙野委員長は「今年の梨は糖度も高く、自信のある出来。生産者一同、心を込めて栽培した栃木の梨は、消費者の皆様にも必ずご満足いただけると確信している。安全安心でおいしい梨を数多く出荷できるよう努力していくので、ご協力をお願いします」と呼びかけました。

トップセールス後には「幸水」の試食の配布も行い、多くの市場関係者の方においしい栃木の梨の魅力を伝えました。試食した市場関係者からは、「みずみずしくて甘く、おいしい」といった好評の声が寄せられました。





幸水梨目揃え会を開催

園芸部は７月23日(木)、「令和8年産とちぎ幸水梨統一目揃会」を開催し、各JAの梨部会長、市場関係者、県の担当者ら、約50名が出席しました。



本会からは、他県や競合品目の状況をふまえたとちぎの幸水梨の販売情勢について情報提供を行いました。その後県からは生育状況の報告があり、今後の栽培管理のポイントについて「補正摘果や病害虫の防除には徹底を図ってほしい」などの助言がありました。

協議では出荷規格表や申し合わせ事項の確認、カラーチャートを用いた現物目揃えを行いました。市場関係者からは、「採り遅れのないよう適熟出荷に努め、品質の良い梨を出荷してほしい」「有利販売を行うために出荷情報を適宜提供してほしい」などの要望が寄せられました。

とち和会視察研修会を実施

畜産部が事務局を務めるとちぎ和牛若手経営者組織「とち和会」は7月10日（金）、「とち和会視察研修会」を開催しました。「とち和会」の会員やJA担当者ら約40人が参加し、生産技術の向上を目的に牛舎の視察と意見交換を行いました。

視察先は、今年度開催された「第4回とち和会枝肉共励会」で最優秀賞を受賞した、（同）たむら畜産（代表：田村宏樹さん）の牛舎です。（同）たむら畜産は、黒毛和牛190頭を肥育し、昨年度は99頭を出荷しています。参加者は牛舎を視察し、飼料や設備について学びました。また、視察後の意見交換会では、田村さんが選畜のポイントや飼料給与、暑熱対策などについて説明し、参加者からの質問に答えました。


（同）たむら畜産の牛舎を視察する参加者


参加者からの質問に答える田村さん

とち和会の町井会長は、「視察で得た知識や意見交換会で学んだことを、今後の経営に役立ててほしい」と話しました。参加者が全農グループの将来や自身の役割について考えを深める機会となりました。

タウンホールミーティングを開催

7月16日（木）、桑田理事長と日比常務を迎え、「タウンホールミーティング」を開催し、若手職員を中心に約20人が出席しました。

座談会では、「栃木県の農業や取り巻く環境の魅力・強み」をテーマに、それらの強みを生かすために全農や職員が果たすべき役割について活発な議論を交わしました。続いて行われた理事長・常務との意見交換では、日頃の業務で感じている課題や農業の未来に対する不安、全農グループの役割などについて参加者から質問や意見が寄せられました。

参加した職員からは、「普段接する機会の少ない役員と直接話ができ、貴重な経験となった」「質問に対して、実体験をもとに真剣に答えていただき参考になった」といった声が聞かれました。活発な意見交換を通じて、参加者が全農グループの将来や自身の役割について考えを深める機会となりました。


挨拶する桑田理事長


意見交換会の様子

TOPICS

ノンプラスチック被覆肥料　現地研修会を開催

生産資材部は７月23日(木)、「ノンプラスチック被覆肥料現地研修会」を開催し、JA担当者や肥料・農薬メーカー、県など約50人が参加しました。

研修会では、肥料・農薬メーカーの担当者からプラスチックを使用しない緩効性肥料の概要や農薬に関する情報提供がありました。また、本会からは展示圃における生育状況や今後のマイクロプラスチック問題への対応について報告しました。その後、JAうつのみや管内の圃場にて、ノンプラスチック被覆肥料を使用した試験区と従来肥料を使用した対照区の生育状況を比較・確認しました。生産資材部では今後も、ノンプラスチック被覆肥料を使用した現地試験を行い、JAやメーカーと連携しながら、環境に配慮した持続可能な農業の実現に向けて取り組んでまいります。





栃木県麦民間流通連絡協議会



米麦部は7月24日(金)、宇都宮市内で「令和８年度栃木県麦民間流通連絡協議会」を開催しました。各産地JA担当者や生産者、実需者、行政関係者ら計56人が出席し、情報提供や意見交換などを行いました。

農林水産省や県からは国産麦の需給動向や生育概況等についての情勢報告がありました。本会からは令和９年産麦の販売予定数量と購入希望数量の総括状況を麦種・銘柄別に報告し、大麦を中心に需給のミスマッチ(供給不足)が拡大していることを受け、需給バランスを考慮した作付推進や収量向上対策など、ミスマッチ解消に向けた対応策を示しました。

また、品質向上や安全・安心に係る取り組み具体策のほか、入札上場比率やアローワンスの設定についても協議しました。

実需者からは、令和8年産の販売数量確保に対する感謝の言葉とともに、令和10年産までに令和７年産並みの生産量を確保してほしいとの要望や品質の安定に対する期待の声が寄せられました。

ジュース用トマト機械収穫圃場見学会を開催

営農販売企画部は7月29日(水)、ジュース用トマト機械収穫圃場見学会を開催しました。生産者やJA担当者など、約30人が参加しました。

カゴメ(株)の担当者より、ジュース用トマト栽培の年間スケジュールや圃場選定の条件、出荷規格などの栽培概要の説明があった後、作付け6年目の江面守さん(JAしおのや管内)の圃場で機械収穫の見学を行いました。



機械収穫実演の様子

参加者は、機械収穫や選別作業の実演を見学するとともに、活発な質疑や意見交換を交わしました。

県内では現在、17人の生産者が合計884haでジュース用トマトを栽培しており、うち3人が機械収穫栽培を行っています。農地の大規模化が進む中、省力的かつ短時間で収穫できるのが機械収穫栽培のメリットです。今後も、機械収穫の推進による生産者の作業負担の軽減を図るとともに、新規生産者の確保や作付面積の拡大に向けた産地支援を強化していきます。

第16回「いちご王国グランプリ」表彰式を開催

本会園芸部と（一社）とちぎ農産物マーケティング協会は7月23日（木）、県内の優秀ないちご生産者を表彰する「第16回いちご王国グランプリ」の表彰式を開催しました。

全国一の栽培面積及び生産量、産出額を誇る本県のいちごですが、国内外の産地間・品種間競争に勝ち抜くため、より一層の生産拡大や品質向上などが求められています。そのような中、県内各産地における生産技術の交流を推進し、より一層の栽培技術の改善と品質向上及び生産意欲の高揚を図ることを目的に実施しました。

予備審査を経て県内各JAに推薦された13点の「とちあいか」の圃場を「立毛」「品質」「収量」の3項目で総合的に審査し、6月に実施した本審査にて大賞1点、金賞5点、銀賞7点を選定しました。

厳正なる審査の結果、JAはが野の石田篤史さん・友美さんの圃場が、見事大賞（＝農林水産大臣賞）に輝きました。

大賞に輝いた石田さんの圃場は、徹底された育苗期の肥培管理や定植後の温度管理により、高収量・高品質ないちごを生産している点が評価されました。



「第16回いちご王国グランプリ」大賞に輝いた石田さんご夫妻（中央）

上位受賞者は以下のとおり。（敬称略）

主催者賞	特別賞	受賞者	管内 JA
大　賞	農林水産大臣賞	石田 篤史・友美	JAはが野
金　賞	県知事賞	若林　暢一郎・美帆	JAかみつが
	農産局長賞	佐藤　修一	JAはが野
	関東農政局長賞	茅島 史彦・麻美	JAしもつけ
	全農会長賞	吉澤　卓登・栞	JAしおのや
	県農業中央会長賞	磯　春美・朝子	JAなす南



事例発表の様子

夏休み親子米粉料理教室を開催

米麦部が事務局を務める栃木県米粉食品普及推進協議会は7月31日(金)、栃木県学校給食会で「夏休み親子米粉料理教室」を開催しました。21組49人の家族連れが参加し、米粉のホットケーキとピザ作りに挑戦しました。

(株)波里の渡辺明男さんのご指導のもと、親子で協力しながら、フライパンでホットケーキを焼いたり、ピザ生地を伸ばしてトッピングしたりと調理に取り組みました。完成した料理は出来立てをみんなで味わいました。

参加された子供たちからは「米粉を使うともちもちとしていて美味しかった」といった感想のほか、「米粉にするときのお米の種類はいつも食べているお米と違いますか」「米粉はどのように作るのですか」との質問が寄せられ、講師からの回答を興味深く聴いていました。







TOPICS

栃木トマト消費宣伝事業委員会を開催

園芸部は7月29日(水)、「令和8年度第2回栃木トマト消費宣伝事業委員会」を開催しました。各産地のトマト部会長やJA担当者、県など約30人が出席し、令和7年度の活動報告や令和8年度の事業方針などを協議しました。

同委員会の幸田委員長は「令和7年度では店頭での試食宣伝を中心に、消費が落ち込む厳寒期の消費拡大対策として、各種メディアを活用したレシピの提案やプレゼントキャンペーンを実施した。今年度も栃木のトマトをさらにご愛顧いただき、魅力を消費者に発信できるよう、ご協力をお願いしたい」と挨拶しました。



挨拶する幸田委員長

園芸部の高瀬部長は「円安や中東情勢による物価高の影響で消費者の購買意欲の減退が進む中、消費宣伝事業は今後ますます重要になる。消費者に“選ばれる栃木のトマト”を目指して取り組む」と挨拶しました。

令和8年度の販売では、厳寒期の消費拡大とシーズンを通した売り場維持・拡大を目指し、継続的な活動を実施することを基本の考え方とし、積極的な店頭販促やメディアの活用、「栃木のトマト」をPRするため販促資材の作成・活用を行うことなどを確認しました。

栃木いちご消費宣伝事業委員会を開催

園芸部は7月30日(木)、「令和8年産いちご第2回栃木いちご消費宣伝事業委員会」を開催しました。 各産地のいちご部会長やJA担当者、県など計 34人が出席し、令和8年産いちごの消費宣伝事業の活動報告や令和9年産における事業方針などを協議しました。

令和8年産いちごの販売金額は、栃木のいちごの売り場作りやマネキンを用いての試食販売、積極的な店頭宣伝・試食宣伝等により、**315億9,600万円**と5年連続で過去最高額を更新しました。



挨拶する小林委員長

同委員会の小林秀男委員長は「店頭での積極的な試食宣伝と、とちあいかの認知度向上を中心に様々な取り組みを進めた結果、令和8年産では昨年の312億円を超える315億円と過去最高の販売金額を達成できた。実需者・消費者の方々に対し、安全で安心なおいしい栃木のいちごを、シーズンを通して安定的に届けることができたと思っている。次年産でも栃木のいちごの消費拡大に向けて一生懸命に取り組んでいく」と意気込みました。

園芸部の高瀬部長は「販売金額が5年連続過去最高を更新した。生産者、ＪＡ・関係機関の皆様には、大変なご尽力をいただき、改めて感謝申し上げたい。気候変動や中東情勢により販売環境が見通せない中ではあるが、引き続き戦略的で効果的な消費宣伝に取り組んでいく」と挨拶しました。

令和9年産の販売では、30～40代の子育てファミリー層をターゲットに、引き続き消費者の購買行動に直結する店頭宣伝・試食宣伝を重点的に取り組むこととし、加えて各メディアを活用した情報発信を積極的に実施し、消費者へのPRを強化することなどを確認しました。

栃木米アンバサダー・U字工事が「とちぎの星」をPR！首都圏の「オーケー」４店舗にてイベントを開催！

米麦部と全農パールライス㈱栃木支店は8月1日（土）、首都圏を中心に展開するスーパーの「オーケー」4店舗において、「『とちぎの星』×オーケーコラボイベント」を開催しました。

当日は、栃木米アンバサダーのU字工事が神奈川・東京の４店舗（港北店、北山田店、新用賀店、みなとみらい店）を巡回し、「とちぎの星」のおいしさや魅力を発信しました。

各店舗において、U字工事による試食販売、手渡しでの販売会を実施し、多くのお客様にご来店いただきました。また、「とちぎの星」購入者を対象に、U字工事との写真撮影会や外れなしの抽選会を実施し、いずれも大盛況となりました。今後も「とちぎの星」をはじめとする栃木県産米のＰＲを通じて、全国の消費者の皆様に対する販売促進に取り組んでまいります。



米粉協議会が県へ支援強化を要請

米麦部が事務局を務める栃木県米粉食品普及推進協議会と本会は8月5日（水）に県庁を訪れ、福田富一知事に対し、「栃木県産米粉用米の生産拡大及び米粉普及・消費拡大に係る要望書」を提出し意見交換を行いました。

本要望は、米粉用米等の新規需要米の作付拡大に向けた支援強化や学校給食における米粉利用拡大への支援を求めるものです。当日は、福田知事のほか、栃木県議会議長や栃木県教育委員会教育長へも要望書を提出しました。



要望書を提出した関係者ら

要望を受けて福田知事は、「米粉の認知度向上に向けた取り組みに感謝している。米粉用米が安定的に供給されるよう、生産拡大に向けた支援や学校給食における米粉利用の拡大について検討したい」と述べました。

今後も行政機関との連携を深めながら、米粉の普及と消費拡大、米粉用米の生産振興に取り組んでいきます。

お知らせ

春の栃木米キャンペーン 当選者が決定しました!

米麦部は8月10日(月)、「春の栃木米キャンペーン」の抽選会を開催し、S賞「U字工事と稲刈り・温泉ツアー」など370組の当選者が決定しました。本キャンペーンには、全国から27,610件の応募が寄せられました。

本キャンペーンは、全国のスーパーや量販店等で販売された栃木県産米をご購入いただいた方を対象とし、2026年5月中旬から7月末まで実施されました。

抽選を行った中村県本部長は、「生産者が丹精込めて育てた栃木米のおいしさを、このキャンペーンを通じて多くの方に知っていただけたことを大変うれしく思う。今後も首都圏・関西・中京エリアでの販売促進活動を強化し、JAグループの栃木米の販売拡大とブランド力向上を図っていく」と話しました。





抽選を行う中村県本部長

簡単レシピ

豚肉と根菜のみそ炒め



(ふれあい食材レシピ)

〈材料〉(2人分)

- 豚肩ローススライス……200g
- Ⓐ しょうゆ・みりん・酒 各小さじ1
- 片栗粉…… 適量
- さつまいも(乱切り) ……1/2本
- れんこん(乱切り) …… 一節
- 油 …… 適量
- Ⓑ みそ…… 大さじ1と1/2
- Ⓑ 酒・みりん・砂糖 …… 各大さじ1
- Ⓑ しょうゆ …… 小さじ2
- Ⓑ しょうが(すりおろす) 小さじ1/2
- Ⓑ にんにく(すりおろす) 小さじ1/2
- 万能ねぎ(小口切り …… 適量

■作り方■

1. 豚肉は食べやすい大きさに切り、Ⓐで下味をつけ、片栗粉をまぶす。
2. さつまいも、れんこんはそれぞれ水にさらし、耐熱容器に入れてラップをし電子レンジ(500W)で5分加熱する。
3. フライパンに油を入れて熱し、❶を入れて炒め、豚肉の色が変わったら一旦取り出す。
4. ❸のフライパンに油を足し、❷に片栗粉をまぶして入れる。弱火にして蓋をし、途中1~2回混ぜながら3分ほど蒸し焼きにする。
5. ❹のフライパンに❸を戻し入れ、混ぜ合わせたⒷを加えて汁気がなくなるまで炒め合わせる。
6. 器に盛り付け万能ねぎを散らす。

ポイント!



栃木推進課 管理栄養士
髙橋雲世さん

さつまいもには水溶性と不溶性食物繊維がバランスよく含まれており、便通だけでなく、血糖値の上昇を抑えてくれます。また、さつまいもの皮付近に豊富に含まれている「ヤラピン」という成分には、排便を促す作用があるため、皮ごと調理することをおすすめします。

ふれあい食材についてはこちらから!



子牛市場情報　令和8年度8月矢板家畜市場成績書

	性　別	上場頭数	成立頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重(日令)	単価(kg)	前回比
1日	雌	161	161	1,257,300	121,000	813,938	309(291)	2,633	23,556
	雄								－
	去　勢	220	220	1,124,200	603,900	913,550	340(288)	2,682	－18,634
	合　計	381	381	1,257,300	121,000	871,456	327(289)	2,662	－110
2日	雌	138	138	925,100	625,900	813,513	313(294)	2,590	71,122
	雄								－
	去　勢	175	175	1,123,100	750,200	945,522	348(292)	2,716	52,422
	合　計	313	313	1,123,100	625,900	887,320	333(293)	2,664	62,473
8月期合計	雌	299	299	1,257,300	121,000	813,742	311(293)	2,613	47,707
	雄								－
	去　勢	395	395	1,124,200	603,900	927,714	343(290)	2,697	14,352
	合　計	694	694	1,257,300	121,000	878,611	329(291)	2,663	30,073
概況	8月の矢板家畜市場は、694頭上場にて694頭が成立し、前年同月比7頭増となりました。平均価格は対前月比雌47,707円高、去勢14,352高となりました。 多数の購買者にご来場いただき、雌・去勢共に活発な取引となりました。 購買者数　1日目：160人　　2日目：143人								

○次回開催/2026年9月1日～2日　出場予定:各350頭(2026年10月の開催は、1日･2日です。)

とちぎ新鮮倉庫からのお知らせ



おすすめ商品のご紹介



「豊水」

JAタウン　たちつてとちぎ新鮮倉庫

とちぎの梨第二弾「豊水」の出荷が始まります！
甘みと酸味のバランスがとれた、シャリシャリ食感も楽しい品種です。
9月は他にも大玉の「あきづき」も掲載予定となっておりますので、是非チェックしてみて下さい♪

クリック
とちぎ新鮮倉庫　検索

9月の行事

- 1日(火)　矢板子牛市場　畜産部
- 2日(水)　矢板子牛市場　畜産部
- 3日(木)　県本部運営委員会
- 11日(金)　県本部運営委員会
- 18日(金)・19日(土)　全農関東甲信地区役職員親睦野球大会
- 26日(土)　U字工事との稲刈り･温泉ツアー

●CRT栃木放送「今朝も元気でいってらっしゃい」
1日(火)　7:33～7:38(5分間)
●RADIO BERRY FM栃木「Do You 農?　たちつてとちぎ」
2日、9日、16日、23日、30日(水)　17:15～17:20(5分間)

編集後記

厳しい暑さが続いた夏も終わりに近づき、朝晩には少しずつ秋の気配を感じるようになりました。実りの秋を迎え、県内の農畜産物も旬の時期となります。私自身、この季節は新米や梨、ぶどうなど、豊かな実りを味わうことを毎年楽しみにしています。ぜひ皆さまも、旬を迎えた県産農畜産物とともに、栃木の「おいしい秋」を満喫していただければ幸いです。(サキ)

だちつぎとちぎ
2026
9
Vol.306

JA全農とちぎ通信　令和8年9月1日発行

祝

第28回全農肉牛枝肉共励会 名誉賞受賞

とちぎ和牛匠 TAKUMI 日本一



黒毛和種　去勢の部
JAうつのみや管内
名誉賞受賞
石戸 榮 氏

JAグループ栃木／JA全農とちぎ　だちつぎとちぎ ©栃木県 とちまるくん

JAグループ栃木 和牛販促委員会　　一般社団法人 とちぎ農産物マーケティング協会

ちきゅうにやさしい みどりをまもる
VEGETABLE OIL INK
この印刷物は環境にやさしい植物油インクと再生紙を使用しています。
私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。
私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
■ 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
■ 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
■ 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

編集・発行／JA全農とちぎ 企画管理課
〒321-0905 宇都宮市平出工業団地9番地25
☎028(616)8804
https://www.zennoh.or.jp/tc/